

【3-2】日常生活支え合い実践事業

自治会型デイホーム利用促進事業 (福井市)

基礎情報

実施地域	宝永地区
実施主体	宝永地区社会福祉協議会
所在地	福井市宝永2-6-15 大黒様方
代表者	松成 嘉實

平成23年度の事業概要

利用者の身体的困難を緩和するために、備品を購入して利用促進に努める。
宝永地区では、難聴が進んだために対話が困難になり、利用をためらう方のために、会話を楽しむ手段として簡単筆談器を購入した。

現在の活動状況

デイホームを開始して13年経過した。ひと月5回開催し、地区内の公民館やお寺等を会場に多くの高齢者が楽しく参加している。

<概要>

地区内の公民館、集落センター等の集まりやすい場所を会場とし、ひと月5回開催し、概ね65歳以上の高齢者が利用する。転倒骨折予防体操、認知症予防メニュー、レクリエーションを行いながら、介護予防を行っている。23年度は延べ人数で654人が利用し、難聴の利用者に使用する。

<維持管理>

地区社協備品として取扱い、専任職員が管理。

<利用状況>

毎回15人～20人ほどの利用があり、言葉が聞き取りにくい利用者がある場合に使用する。

事業の実績、成果

毎回15～20名ほどの利用がある。
認知症予防や転倒骨折予防体操を行いながら、地区社協関係者が協力者となり、見守り活動にもつながっている。

工夫した点

難聴で会話がやや難しい高齢者でも、簡単に筆談することができる。閉じこもり防止にもなり、会話を楽しむことができるように購入した。

事業の財源

平成23年度の地域支え合い体制づくり補助金で、利用高齢者の身体的困難を緩和するための備品を購入。

自治会型デイホームは、市社協補助金、地区社協自主財源、利用者負担金、寄付金で運営されている。

課題

筆談以外にも、筆談器に慣れてもらう意味も兼ねて、今後は脳トレやゲームにも活用していきたい。

今後の目標

多くの前期高齢者にも利用してもらい、介護予防の大切さを伝えていきたい。
また、今後も地域のつながりや見守り活動につなげていく。

団体からのメッセージ

宝永地区は年々、参加人数が増えてます。

これからも状況に応じて簡単筆談器を活用し、地域でコミュニケーションをとりながら、多くの方に参加してもらいたいと思います。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

自治会型デイホーム利用促進事業 (福井市)

基礎情報

実施地域	湊地区
実施主体	湊地区社会福祉協議会
所在地	福井市学園1-4-8 湊公民館内
代表者	野口 つぎ代

平成23年度の事業概要

利用者の身体的困難を緩和するために、備品を購入して利用促進に努めた。
湊地区では膝が悪くて正座が困難な利用者が多いため、座卓でも使える和室用の椅子を購入し、デイホーム当日に使用した。

現在の活動状況

平成12年からデイホームを始め、地区内の公民館やお寺で行い現在は14会場で行っている。

ひと月5回開催し、認知症予防やレクリエーション等楽しく介護予防を行っている。

<概要>

地区内の公民館、集落センター等の集まりやすい場所を会場とし、ひと月5回開催し、概ね65歳以上の高齢者が利用する。転倒骨折予防体操、認知症予防メニュー、レクリエーションを行いながら、介護予防を行っている。23年度は延べ人数で1,265人が利用している。

<維持管理>

地区社協備品として取扱い、和室で椅子がない会場に設置した。

<利用状況>

20~25名程度の利用があり、膝が悪い利用者が使用している。

事業の実績、成果

和室でも使えるため、膝が悪く今まで立ち上がりに苦労していた利用者の動きが緩和した。

工夫した点

腰痛や関節痛を抱える高齢者にとって、畳では座りにくいため安定感があって座り心地の良いイスを設置し参加しやすくなるよう工夫した。
また、遠慮して使用しない場合は無理に進めることはせず、利用者の意思を尊重した。

事業の財源

平成23年度の地域支え合い体制づくり補助金で、利用高齢者の身体的困難を緩和するための備品を購入。
自治会型デイホームは、市社協補助金、地区社協自主財源、利用者負担金、寄付金で運営されている。

課題

椅子は立ち上がり楽なために、使用したい人が多い時は数が足りなくなったり、また、膝が悪く椅子を勧めても、他の人が座っていないと、遠慮をして座ることを拒む場合がある。

今後の目標

一人でも多くの高齢者にデイホームに参加してもらい、地域のつながりや交流を大事にしながら、介護予防につなげたい。

団体からのメッセージ

湊地区では、毎回にぎやかにデイホームを行っています。
これからも椅子を活用しながら、一人でも多くの高齢者に利用してもらえるように、楽しい雰囲気を作っていきたいと思います。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

自治会型デイホーム利用促進事業 (福井市)

基礎情報

実施地域	市内一円
実施主体	福井市
所在地	福井市大手3丁目10番1号
代表者	福井市長 東村 新一

平成23年度の事業概要

市内一円で開催されている自治会型デイホームの利用促進、とくに男性利用者の増加を期待し、男性が興味を抱く新しいメニューに必要な映像機器等の備品について選定し購入した。備品は、自治会型デイホーム事業の委託先である福井市社会福祉協議会、実施主体となる地区社会福祉協議会に貸し出され、健康カラオケ大会、映画鑑賞会など、男性も参加しやすく、気軽に集まることのできる居場所づくりに役立てる。

- ・プロジェクター、スクリーン、DVDプレーヤー、デジカメ等、映像機器等を購入し、高齢者の居場所づくりのための活動に貸し出す。

現在の活動状況

平成12年10月から自治会型デイホーム事業を開始、福井市社会福祉協議会に委託している。このデイホーム事業を充実させるため、平成23年度より新たな備品の貸し出しを行っている。

以下、新たな備品を利用した活動の一例を紹介する。

〈概要〉

平成24年6月14日(木) 大安寺地区 大安寺公民館で行われたメンズデイホーム(愛称:おやじの広場)で、講師からデジタルカメラで上手に写真を撮る講習会を行った。

〈維持管理〉

貸し出し用備品については、福井市に物品借用申請書を提出し、借り受ける。デジタルカメラで撮った写真をその場でプリントアウトするために、持ち運びができるプリンターを購入し、デジタルカメラと一緒に貸し出す。インクは市社協で準備し、写真紙は各デイホームで準備する。

〈利用状況〉

年6回あるメンズデイホームで、毎回20名程度の利用がある。当日も22名の参加があり、自分のカメラを持って参加する利用者もいた。

事業の実績、成果

自分のデジタルカメラを持ってきた利用者もいたが、初めてデジタルカメラを使う男性もいて、興味を持って講座を受けていた。

同様の講座や、そのほか新しい備品を活用した活動を行いたいと備品貸出しを希望する地区も徐々に増えており、男性の参加者数増加に役立てられている。

工夫した点

おやじのひろば独自のチラシを配布したり、地区壮年会会員に声をかけ、多くの方に講座開催を知ってもらえるよう広報活動を行った。
備品貸出しにあたっては、適切に管理が為されるよう市社協と連携しながら行っている。

事業の財源

平成23年度の地域支え合い体制づくり補助金で、新しく映像機器等の備品を購入。
自治会型デイホームは、市委託料、市社協補助金、地区社協自主財源、利用者負担金、寄付金で運営されている。

課題

男性は、歌や創作などよりは、動きがあるものが良く、成果や達成感を味わえることを好むように思う。
デジタルカメラは撮った画像がその場ですぐ見られ、撮り方の工夫もできるので、今後、初級、中級などグレードを上げたり、1回で終わらず3回講座などにすると更に達成感を味わうことができるのではないか。

今後の目標

今回は男性のみの開催だったが、女性利用者にもデジタルカメラを体験してもらい、新しいことに挑戦する興味を持ってもらいたい。
利用者全体に占める男性利用者は、10月には昨年度を上回って21.2%となり、平成24年度1月末現在で22.8%と、その後も増加している。
今後もさらなる増加に向けて、また開催回数においては1地区月5回以上、参加者数においては平成27年度に9,390人を目標とし、自治会型デイホームの利用を促進していく。

団体からのメッセージ

〈福井市からのメッセージ〉

時代の移り変わりとともに、高齢者の方が興味を持つ内容もアナログなものからデジタルなものまで多様化しています。

活動の幅を広げることにより、よりいっそうデイホームへの参加が促進され、介護予防、生きがいづくり等々に繋がるよう期待しています。

〈市社協からのメッセージ〉

デジタルカメラ等、新しいことに興味を持つことによって視野を広げてもらい、毎日の生活に生きがいを持ち、元気に毎日を過ごしてもらいたいです。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

憩いの場所づくり (小浜市)

基礎情報

実施地域	小浜市田烏地区
実施主体	小浜市
所在地	小浜市田烏58-1-1
代表者	小浜市長 松崎 晃治

平成23年度の事業概要

田烏地区には集会場がないため、サロンのような集まりは漁業協同組合の2階や個人宅を借りて行っていたがトイレが和式であり、階段を上がらなくてはならないことから参加者が限られるため、地区内にある旧保育園のトイレを改修し高齢者がいつでも集える居場所づくりを行う。

- ・ 幼児用トイレを大人用トイレに改修し、間切りを設置する。

現在の活動状況

ふれあいサロンを立ち上げ月1回サロンが開催されている。

- ・ 漁業組合の2階や和式トイレでは足の悪い人が参加しにくく、限られた人の集まりであったが旧保育園のトイレを改修し高齢者が気軽にいつでも集まれる居場所となっている。
- ・ 鍵の管理は地元自治会に任せ鍵の開け閉めを行う。

事業の実績、成果

月1回ふれあいサロンが開催され、立ち上げ時より人数が増加している。
今まで参加できなかった高齢者も参加できるようになり、サロンを楽しみに参加している。

工夫した点

保育園のホールの一部に畳をひき、畳に座ったり、足の悪い人は、イスに座ったりと体に合わせて参加できるようにする。

事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金で、トイレの改修工事を実施。
サロンの運営は市の一般財源。

課題

高齢者に限らず、多くの住民に憩いの場所になるように声かけを行うことが必要。

今後の目標

多くの区民が気軽に集える居場所づくりのため世代間交流行事を企画していく。

団体からのメッセージ

誰もが集まれる居場所づくりを目指しています。
近所同士誘い合い気軽に集まって下さい。
和気あいあいと楽しく過ごしましょう。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

憩いの場所づくり (小浜市)

基礎情報

実施地域 小浜市遠敷地区
実施主体 小浜市
所在地 小浜市遠敷4丁目117
代表者 小浜市長 松崎 晃治



平成23年度の事業概要

小浜市内の遠敷地区にある憩いの家「やすらぎ荘」の一部を改修し備品を設置することにより、高齢者が、季節を問わず集まれる居場所づくりを行う。

- ・ 入口の階段に手すりを設置し足腰の悪い高齢者でも利用できるようにする。
- ・ 和屋にエアコンを設置し一年を通し、利用できるようにする。

現在の活動状況

地域住民に施設の無料開放を行っている。

(概要)

- ・ 月曜日から土曜日の午後1時から4時まで開放し誰でも自由に出入りができる。
- ・ お茶等を飲みながら気軽にくつろぐことができる。

(維持管理)

- ・ 鍵の管理は地元に任せ責任者が鍵の開け閉めを行う。

(利用状況)

- ・ 1日10～20名程度の利用がある。
- ・ 利用のほとんどは65歳以上の男女

事業の実績、成果

1日、10～20名程度の利用がある。

女性が多く利用していたが利用者の口コミのより男性の参加もみられるようになった。年齢層も広くなり80代の高齢者も利用するようになり、認知症の予防や、引きこもり防止につながっている。

工夫した点

決まった企画はおこなわず、どの年齢のかたでも集まりおしゃべりを楽しむことが出来る場所になっている。
足の悪い方でもイスに座りおしゃべりが楽しめるようにしている。



事業の財源

平成23年度地域支え合い事業補助金で出入り口の階段手すりと和室にエアコンを設置。
その後の居場所づくりの運営については市の一般財源。

課題

一部の人に限らず、多くの住民に憩いの場所について知らせる。

今後の目標

住民の多くに気軽に立ち寄れる憩いの場所を知らせるため地区での世代間交流行事を企画していく。

団体からのメッセージ

地区の皆さんが集まりワイワイとおしゃべり、お茶等を飲みながら楽しい時間を過ごしています。
近所の人を誘って覗いてみてください。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

憩いの場所づくり (小浜市)

基礎情報

実施地域 小浜市全域
実施主体 小浜市
所在地 小浜市南川町4-31
代表者 小浜市長 松崎 晃治



平成23年度の事業概要

健康管理センターの和屋の修繕とトイレを改修し高齢者がいつでも気軽に集まれる居場所づくりを行う。

訓練用マットやノルディックステック等の備品を購入し、今後の介護予防に役立てる。

現在の活動状況

介護予防教室の運動メニューにノルディックウオークを取り入れることができ、ノルディックウオークにより運動量を確保することができている。

トイレの改修や、安定感のある椅子と取り扱いの容易な机を設置したことにより、これまでに比べ運動器に支障のある高齢者の参加が増えてきている。

また、既存の教室では効果の上がりにくい、要介護状態への移行の危険性のある高齢者を対象とした介護予防教室（元気アップ教室）を実施している。

事業の実績、成果

円背傾向にある高齢者はポールを使用することにより体幹伸展が補助され、歩行距離を延ばすことが容易となり、楽しんでノルディックウオークに取り組む高齢者が増えている
元気アップ教室は1週間に1回開催している。

- 実施回数 : 40回
- 参加実人数見込み : 20人
- 参加延人数見込み : 440人

工夫した点

高齢者が参加しやすいよう送迎バスをだし、多くの人が集まれるようにした。



事業の財源

トイレ改修、机・椅子・ノルディックの購入は、県補助金を活用（地域支え合い）
教室に必要な経費等は市の財源

課題

要介護になる前の人の把握が出来ていないため把握の方法を検討。
広報などに掲載はしているが、まだまだ健康教室を知らない高齢者が多い。
広報の仕方を検討する。

今後の目標

要介護になる前の人を把握し、元気アップ教室などの参加人数を増やす。

団体からのメッセージ

みなさん楽しく参加しておられます。
自分の体にあった教室にぜひ一度参加してみてください。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

憩いの場所づくり (小浜市)

基礎情報

実施地域 小浜市口名田地区
実施主体 小浜市
所在地 小浜市中井4 1-9
代表者 小浜市長 松崎 晃治



平成23年度の事業概要

名田公民館に健康器具を整備し器具を使つての集いの広場を開催する。

名田公民館1階にはたくさんの方が集まれる場所がないため2階での開催となるが、高齢者にとっては階段の上り下りが大変であるため参加が少ない。

階段手すりを取り付け、高齢者が集まれる場所を作る。

現在の活動状況

名田公民館は地区民の集まる場所であり、2階ホールへの階段手すりを設置することにより、むらづくり推進委員会の企画行事等の参加がおこなわれている。

高齢者芸能部や、もみじ会（踊りサークル）による踊りの練習や活動が行われている。

地区民によるふれあいサロンで輪投げなどを使ったミニ運動会が開催されている。

事業の実績、成果

健康器具の中で輪投げは人気があり、地区のサロンや公民館で頻繁に使用し活動している。

2階ホールへの手すりを設置することにより、高齢者のサークル活動が増えつつある。

工夫した点

公民館たよりに階段の手すり取り付け、健康器具の活用について掲載し利用を呼びかけた。



事業の財源

平成23年度で地域支え合い体制づくり事業補助金で口名田公民館に健康器具を配布し、階段手すりの設置を行った。
その後の居場所づくりの運営は市の一般財源。

課題

輪投げは人気がありよく使われてはいるが他の健康器具の活用が少ない。

今後の目標

高齢者だけでなく地域の中で多くの人が健康器具を利用できるよう世代間交流行事を行う。



団体からのメッセージ

家に閉じこもらず、どんどん出かけてきて下さい。
健康器具を使い、健康で長生きの口名田地区を目指しましょう。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

ボランティアグループによる「まちなかカフェ」の運営 (大野市)

基礎情報

実施地域	大野市
実施主体	福祉ボランティアグループ「ちまた」
所在地	大野市本町9-7
代表者	松田光代



平成23年度の事業概要

ボランティアグループのメンバーが所有する空き家を改修し、高齢者や障害者が交流できる喫茶コーナーを設置した。

- ・簡易な喫茶コーナーの設置
- ・段差解消
- ・備品の購入

現在の活動状況

平成24年4月10日に「まちなかカフェちまた」をオープン

<概要>

営業日：祝祭日を除く毎週火曜日、金曜日、土曜日の週3回
営業時間：午前10時～午後5時（11月～3月は午後4時まで）
コーヒーやお茶などのドリンクを1杯200円で提供している

<利用状況>

- ・60～70代を中心に、多い日は30人を超える利用客が訪れ、そのうち約3割がリピーターである。
- ・利用客は、男性の方が多い。

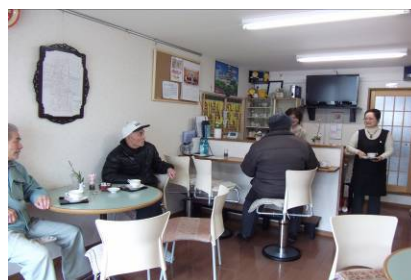
事業の実績、成果

利用者の中には、一人暮らしの人も少なくなく、憩いの場として活用されることで、見守りの一助となっている。

また、こちらから出向くのではなく、高齢者の方からカフェを訪れ、会話を楽しむことにより、外出促進や認知症予防にも寄与している。

工夫した点

- ・ボランティアグループの仲間が所有していた空き家を活用している
- ・利用客の写真や絵画作品を月替わりで展示している
- ・カフェを運営しない日は、水墨画教室や打合せなどに利用できるようにしている
- ・市の郊外や市外からも車で訪れる方もおられるので、近くに駐車場を2台確保した



事業の財源

- ・カフェの売上げ
- ・イベント賃貸料や会議室の使用料
- ・「ちまた」会員の資金

課題

バスの停留所が近くにないなど、公共交通機関を使っての高齢者等の利用が難しい。

今後の目標

高齢者や障害者の方が気軽に利用できる「まちなかカフェ」を1箇所だけでなく、他にも何箇所かオープンさせたい。



団体からのメッセージ

高齢者や障害者の方などが楽しく、笑いの絶えない、居心地のよく過ごしていただける場所を目指しています。
「まちなかカフェちまた」に、お時間のあるときは、是非ふらっと寄ってみてください。

問合せ先：福祉ボランティアグループ「ちまた」

(TEL : 090-2128-0595)

【3-2】日常生活支え合い実践事業

町内サロン交流の場づくり事業 (鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市 豊地区
実施主体 鯖江市 当田町公民館
所在位置 鯖江市当田町21-4-6
代表者 サロンなごみ会代表 小嶋千代子



平成23年度の事業概要

- ・ 町内にある公民館の一部を改修し、交流スペースの備品を配備することで地域住民が気軽に顔を出せるような居場所づくりを行う
- ・ 建物入り口の段差解消 洋式トイレの改修 玄関廊下手すりを設置し、身障者、足腰の悪い高齢者でも、施設を利用できるようにする
- ・ 和室には座椅子も設置して安心して参加ができるようにする

現在の活動状況

平成23年10月から、地域住民に対し施設の無料開放を実施

《概要》

- ・ 毎週火、木の午後1時～4時を開放し誰でも出入りする事ができる。
- ・ 第2週木曜日サロン活動 年間を通じ実施している。
- ・ 世代間交流事業は毎回多くの住民が参加している。

《維持管理》

- ・ 公民館の鍵等の管理は区長が行っている
- ・ お茶、コーヒーはなごみ会が購入補充している

《利用状況》

- ・ 1日、3～4名程度の利用がある 殆どが65歳以上の女性

事業の実績、成果

- ・ 1日、3～4名程度の利用がある
利用者のほとんどは65歳以上の女性になっている
- ・ 老人の引きこもり防止や世代間交流などでは孤独感の解消につながっている
活動の実施、実績のなかで利用率の幅が増ってきている

工夫した点

季節に応じた料理、手品、歌声、クリスマスケーキ作りなど参加型の内容にしたり、高齢者の犯罪、自損、交通事故予防策などの自己防衛の施策、認知症の問題など身近な話題を取り入れ、多くのお年寄りに幅広く満足してもらえるよう工夫している。

また、世代間交流事業では高齢者から子どもたちに昔のことを語ってもらったり伝承遊びを行っている。



事業の財源

- ・平成23年度は地域支えあい体制づくり補助金で、誰もが利用できるよう町内公民館を整備。
- ・サロン運営は教材費として一部自己負担あり。世代間交流事業は町内団体からの助成金でまかなっている。

課題

- ・町内において男女とわず高齢者が増加してきている。男性の参加者が少なく、男性高齢者の居場所づくりにはなっていない。
- ・財源に工夫が必要である。

今後の目標 H25

年を追うごとの高齢者の大幅増加にともなう防災、災害時避難など大きな問題がある。たえず非常時を想定した取組みも必要とされるため、SOSチェック活動を町内へ提言していく。

高齢者の引きこもり防止や子どもたちの心身の健やかな成長のため、地域の人たちに周知しながら交流事業を進めていく。

また、男性の参加者が増えるよう工夫するとともに他地区との防災交流も求めていく。



団体からのメッセージ

福祉関係、民生委員を中心としたサロンスタッフ6名は平均年齢66歳！

多くの高齢者が元気で笑顔で集まり、笑顔で家庭へ戻ってもらうコレが励みになります

【3-2】日常生活支え合い実践事業

高齢者による「おもちゃの病院」開設による生きがいの場づくり
(鯖江市)

基礎情報

実施地域	鯖江市
実施主体	特定非営利活動法人エコプラザさばえ
所在地	鯖江市中野町73-11 (エコネットさばえ内)
代表者	理事長 井上哲夫



平成25年度の事業概要

おもちゃの病院に必要な工具類や看板・のぼり等を整備。
全市内の高齢者対象に「おもちゃドクター養成講座」参加を呼びかけ、養成講座を実施。
おもちゃ病院を開設し集まってきたおもちゃの修理会を毎月2回のペースで開催。
修理会ではおもちゃを持ち込んでくる子どもたちとの交流をはかる。

現在の活動状況

毎回10から20名程度のドクターが集まって修理会を開催中。
ドクターたちの要望で月2回の修理会を2回に増やし、地域の高齢者と子どもたちとの活動・交流が広がっている。
平成25年度は、県社会福祉協議会と共同で「おもちゃの病院ドクター養成講座中級編」を開催し、ドクターのレベルアップを図った。

事業の実績、成果

活動・交流ともに参加ドクター（高齢者）の生きがいづくりに大変効果を得ていることが、修理会を月2回の開催につながった。

工夫した点

常時壊れたおもちゃの受け入れをすることにより気軽にいつでも持ち込んでもらえる体制を整えた。



事業の財源

平成23年度の地域支えあい体制づくり補助金で、備品等を整備。
エコネットさばえの「3R推進事業」の予算によって継続運営を行っている。

課題

修理を要するおもちゃの集まりがまだまだ少なく、ドクターさんたちが手ぐすね引いて待っているのが現状で、いろんなチャンネルを通して壊れたおもちゃを集めていかねばならない。

今後の目標

さらに多くの『壊れたおもちゃを』を収集し、環境問題と、福祉の融合により成果を上げていきたい。



団体からのメッセージ

環境NPOとして福祉関連事業には経験がなかったが、この事業推進を通して、毎回参加していただく高齢者の方々には頭の下がる思いです。
生き生きとして活動されている姿は頼もしい限りです。
それぞれの力を合わせてこれからも継続していけるよう頑張っていきたい。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

中河保育所地域ふれあい事業

(鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市中河地区
 実施主体 鯖江市中河保育所
 所在地 鯖江市中野町208-1
 代表者 所長 福田佐知代



平成23年度の事業概要

市内の中河地区にある児童福祉施設「中河保育所」は、近隣地区からの利用も多くなってきている。備品を配備することで、園児の祖父母にかかわらず広く地域の高齢者が、定期的に園児と交流できる場をつくる。

- ・ 大型テレビを設置し、多数の参加者が園児と一緒に触れ合えるようにする。
- ・ 大型絵本を購入し、多数の参加者が園児と一緒に楽しめる場をつくる。
- ・ CDデッキを購入し、多数の参加者が園児と一緒にリズムに合わせて体を動かし健康な体作りが行えるようにする。

現在の活動状況

平成25年度の年間実施計画を立て、保護者および地域の高齢者に対して、ふれあい事業を実施中

<概要>

「絵本とのふれあい」 毎月1回 午前9時から10時30分まで

4、5歳児の部屋でそれぞれ、ふれあいの時間を楽しむ。

「祖父母ふれあい遊び」年3回

大型絵本、リズム遊び、伝承遊び、わらべ歌遊びをとおしてふれ合って遊ぶ。

焼き芋会、餅つき会、ぜんざい会のイベントも同時に行い園児と一緒に楽しむ。

「交通教室」年3回 市交通指導員により園児と一緒に交通の指導を受ける。

<維持管理>

もち米等は地域住民からの寄付、その他の材料は、市予算にて購入する。

世話係は、地域住民、祖父母が積極的に行う。

<利用状況>

「絵本とのふれあい」1回2~3人程度 「交通教室」2回目に5人

「祖父母ふれあい遊び」1、2回目共80人程度 3回目30人程度 利用者は、65歳以上の男女

事業の実績、成果

「絵本とのふれあい」は、継続する事業となり定着してきている。地域のボランティアの絵本の読み聞かせや話を通じて、お年寄りからの知恵を園児がもらい、園児の元気が高齢者に届くといったよいふれあいが広がっている。

「交通教室」は、2回目の実地訓練において祖父母・地域高齢者・園児の学びの場となってきた。「祖父母ふれあい遊び」は、毎回、参加者が多く、どんどん交流の輪が広がっている。

工夫した点

恒例で行い、負担をかけない自然な交流ができる場とした。

イベントは、昔懐かしいものを企画し、参加者が楽しく過ごせるようにしている。

高齢者から伝承してもらうことで、高齢者の生きがいの場となるとともに園児の遊びが広がるようにしている。



事業の財源

H23年度『地域支えあい体制づくり事業』の補助金で、大型テレビ、大型絵本、CDデッキ等の備品を購入。

高齢者との交流会の運営に必要な賄材料費および保育材料は、市の一般財源にて対応している。

課題

地域の一人暮らしの高齢者への呼びかけが届かず、利用がほとんどない。子育て支援としての園開放は、毎日行っているが、地域高齢者においては、自然なふれあいの場づくりになっていない。

今後の目標

子育て家庭と高齢者が、園開放において自然な形でふれあいながら、生き生きと過ごせる場にしていきたい。

今後、保育所の取り組みを地域に発信していき、地域の人々と園児がふれあうことで、活力のある地域づくりにつなげていきたい。

団体からのメッセージ



赤ちゃんから小学校就学前の子ども達が楽しく過ごしています。

元気いっぱい子ども達と職員の笑顔に出会えます。
中河保育所の園開放は、平日の10時から11時です。
毎月、鯖江市のホームページにおいて「ふれあい事業」の開催をお知らせしていますのでご覧ください。

問合せ先： 鯖江市中河保育所

(TEL : 0778-51-3103 FAX : 0778-51-3982)

【3-2】日常生活支え合い実践事業

幼稚園における地域の方や祖父母との交流づくり

(鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市
実施主体 鯖江市鯖江幼稚園
所在地 鯖江市日の出町
代表者 笠川みち子



平成23年度の事業概要

- ・近隣の高齢者や地域の方が交流できる居場所づくりのために、テレビやCDデッキ等の備品を整備。
- ・園に高齢者を招き、伝承遊びや視聴覚教材を利用したリズム体操、歌遊び、読み聞かせ等の事業を開催。

〈地域の高齢者との交流会〉

鯖江地区の高齢者グループ「SBE80」のメンバーを中心として昔遊び、伝承遊びを園児や地域の未就園児親子と共に楽しんだ。

また、折紙遊びや自然物を利用した遊びなど素朴な昔遊びも行った。

〈交流学級〉

地域ボランティア指導によるリズム遊びや園で取り組んでいる伝承遊びを園児の祖父母や高齢者と共に楽しんだ。

またテレビ（BDレコーダー）を通して子ども達の様々な活動の様子を視聴し、会話も弾みゆったりと触れ合って遊ぶことができた。

〈絵本を楽しむおしゃべり会〉

絵本の読み聞かせ実演や本の魅力についての講演を園児と共に楽しむ。

絵本に描かれている絵の魅力を教えていただいた。

現在の活動状況

1～2か月に1回交流事業を開催している。

- ・近隣のお年寄りを招いて、折紙や広告紙の工作を教えてもらったり、一緒に遊ぶ。
- ・園児の家族や、在宅の親子、お年寄りを招いて、幼稚園と保育所合同の夏祭りを楽しむ。
- ・園児と在宅の親子が、地域のお年寄りから伝承遊び遊びを見せていただいたり、一緒に遊んだ後、戦争体験の話を聞く。
- ・園児とその祖父母、在宅の親子が、SBE80と一緒に歌や踊りを楽しんだり、昔遊びを一緒に楽しむ。

事業の実績、成果

- ・園児祖父母を通して、地域の高齢者への声かけが徐々に広がりつつある。
- ・一度参加した地域の高齢者は、園に訪問しやすくなったと感じる。
- ・祖父母・高齢者と交流することで、優しい気持ちを感じたり、高齢者を思いやる気持ちが園児に芽ばえてきたと感じる。

工夫した点

- ・近所の方に一人でも多く来ていただくために、園児の祖父母を通して誘っていただくようにした。
- ・イベントを通じての参加を募り、園に来やすい雰囲気づくりをした。



事業の財源

平成23年度地域支えあい体制づくり補助金で備品を購入。
高齢者との交流の運営に必要な教材費は、市予算で対応している。

課題

イベントには来やすいが、通常は迷惑がかかるのではと遠慮される高齢者がいた。
今後は、地域の方へのアピール法を考慮していきたい。
また、地域の方も参加しやすい計画を立てるようにしていきたい。

今後の目標

- ・ イベントを通して、園児、職員と、まず顔なじみなるようなかわりをするのが地域との結びつきにつながる。
- ・ 地域の様々なネットワークと連携して視聴覚機器を活用しながら、できるだけ日常的に世代間の交流を図っていきたい。

団体からのメッセージ

「子ども達が喜んでくれるので、毎年、楽しみにしています。」

「子どものそばにいられるだけで喜びを感じます。」といった高齢者の方々からのお声に励まされ、今後も園を開放して行きます。

どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。



【3-2】日常生活支え合い実践事業

幼稚園における地域の方や祖父母との交流の場づくり

(鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市進徳地区
実施主体 鯖江市進徳幼稚園
所在地 鯖江市長泉寺町1-9-19
代表者 園長 西教ひろみ



平成23年度の事業概要

近隣の高齢者や地域の方が交流できる居場所づくりのために、テレビやCDデッキ等の備品や絵本を整備し、地域の高齢者を招き園児と共に踊ったり遊んだりと交流を図る。

- ① 話お話し会 (H24.1~隔月1回)
 - ・大型絵本の読み聞かせやテレビ視聴を行った。
- ② 地域高齢者との交流会 (H24.1~月1回)
 - ・ラジカセを活用し、音楽に合わせて伝承遊びを一緒にしたり、DVD再生機能付きテレビで昔話を視聴したり等を行った。
- ③ 地域の人への活動報告 (H24.2)
 - ・幼稚園の日頃の活動状況をDVD再生機能付きテレビで視聴してもらい園の活動について話し合った。

現在の活動状況

平成24年4月から地域の高齢者と幼稚園で交流活動を実施している。テレビ等視聴覚教材を活用し、こままわし、まりつき、なわとび等の伝承遊びを一緒にしながら、楽しいひと時を過ごしている。

<概要>

いろいろな行事の準備に来園してもらったり、行事当日に来園してもらい園児と交流する。

<管理>

通常来園してもらうときには名札をつけてもらう。

製作等の費用については一般会計の消耗品費から支出する。

<利用状況>

2カ月に1度ということで6~7名の利用である。

夏祭りなどの大きな行事になると参加者が増える。

発表会にも招待して、高齢者席を設け参観できるようにした。

事業の実績、成果

交流事業を通して地域の高齢者の生きがいづくり、幼児にとって優しさや思いやりが育まれ、豊かな心を形成することができた。

地域とのつながりや交流により地域に開かれた園としての機能を発揮できた。

工夫した点

高齢者が参加しやすいような活動を取り入れた。特に、昔とった杵づかの伝承遊びに関してはこままわしや、お手玉やケンパの技を子ども達に伝授してもらうようにした。ラジオ体操は取り組みやすいように、夏休みが終わってからいっしょにするようにした。読み聞かせや室内遊びなどは、自分の得意なことを発揮していただくようにロコミで声かけをした。



事業の財源

平成23年度地域支えあい体制づくり補助金で備品を購入。高齢者との交流の運営に必要な教材費は、市予算で対応している。

課題

幼稚園の周囲に住んでいる高齢者や園児の祖父母には周知できるが、多数の高齢者には事業の開催が周知できないので方法を考える。幼稚園の施設が高齢者向きになってないので、危険な場所が多いため支援する人が必要である。

今後の目標

園訪問日にたくさんの地域の高齢者の方が参加できるようにし、気軽に訪れることができる雰囲気のある園にしたい。気がかりな子が高齢者と触れ合うことで、心を安定させたり、育ちにつながるような活動を考え実践していきたい。



団体からのメッセージ

幼稚園は地域の高齢者の方が園児と触れ合う場所です。ゲストティーチャーとしてお越しくださっても結構ですし、園児といっしょに遊んでくださっても結構です。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

幼稚園における地域の方や祖父母との交流事業

(鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市神明地区
実施主体 鯖江市神明幼稚園
所在地 鯖江市三六町1丁目8-24
代表者 園長 塚崎 幸子



平成23年度の事業概要

テレビやCDデッキ等の備品を整備し、近隣の高齢者や地域の方が交流できる居場所をつくる。

- ・「おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう会」
地域の高齢者と一緒にテレビで（つくって遊ぼ）を視聴したり、伝承遊びを教してもらったり、CDラジカセで音楽を流しリズム遊びなどをして交流した。
- ・「もちつき会」
祖父母や地域の方と一緒にわらべ歌遊びやTVで昔話の視聴後、昔ながらの伝統行事（餅つき）を行った。
- ・「ジャガイモ収穫祭」
じゃがいもの収穫を体験する。（地域の方の畑にて）

現在の活動状況

平成24年度は、今まで以上に交流する機会を増やしていき、更に子ども達の経験が広がるようにしていく。

- ・ 地域の方に手作りの大型絵本を読んでもらう。
- ・ 地域の方の畑のじゃがいも収穫に参加する。
- ・ 地域の方の特技のハーモニカの演奏を聴く。
- ・ 地域の方にしめ縄の作り方を教んでもらう。
- ・ 石臼やきな粉製造機を使ってきな粉作りを体験する。
- ・ もちつき会を開催し、地域の方に手伝ってもらう。
- ・ 地域の方が育てている珍しい野菜を紹介してもらう。

事業の実績、成果

1回の行事に4～5人の方々が来園し、子ども達との交流を深めた。子ども達も回を重ねる度に地域の方々に親しみをもち、喜んでかかわっていた。
子ども達が、通常なかなか出来ない多くのことを経験したことで、いろいろな発見をし、感動したり、喜んだりしていた。

工夫した点

不安なく気軽に幼稚園に来て頂くために、事前に打ち合わせをしたり、地域の方が無理なく出来るように、特技を披露してもらったりして、参加する方も楽しめるようにした。



事業の財源

平成23年度地域支えあい体制づくり補助金で備品を購入。
高齢者との交流の運営に必要な教材費は、市予算で対応している。

課題

今年度は、ほとんど同じ方々が1年を通して来園したが、もっといろいろな方々に来てもらい、交流を深めると共に幼稚園が地域の中で身近な存在となるようにしていきたい。
高齢者も子どもも無理なく一緒に楽しめる遊びを取り入れた交流事業を実施していきたい。

今後の目標

- ・ 交流を深めていくことで地域の方々に園児をよく知ってもらい、地域密着の教育が出来るようにしていきたい。
- ・ 核家族が多い家庭状況の子ども達に、いろいろな世代の方々と触れ合う機会をもち、普段家では出来ないような経験が出来るようにしていきたい。

団体からのメッセージ



当幼稚園は、いろいろな経験を通して幅広い人間形成を目指しています。
園児がすこやかに成長できるように、地域の皆さまのお力添えが必要です。
どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。
お待ちしております。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

幼稚園における地域の方や祖父母との交流の場づくり (鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市北中山地区
実施主体 鯖江市北中山幼稚園
所在地 鯖江市戸口町9-11-4
代表者 三津谷 雅美



平成23年度の事業概要

地域に開かれ、信頼される幼稚園づくりをめざし、祖父母や地域の高齢者の教育力を生かし、視聴覚教材等の備品を整備、活用しながら保育活動に取り組み、居場所づくりを行った。

- ・ 食育活動に祖父母や高齢者の参加を促した。
- ・ 様々な保育の場面に祖父母や高齢者の参加を促し、教育力を生かすようにした。

現在の活動状況

<概要>

祖父母や高齢者に対して幼稚園開放を実施

「特別な日を除き、保育時間中に、気軽に幼稚園に来ていただき、保育活動を参観・参加することができる」

- ・ 食育活動（野菜の栽培や収穫・餅つき等）に祖父母や高齢者の参加をお願いする。
- ・ 様々な保育の場面（遊びにおいて・保育参観・交通教室）に祖父母や高齢者の方々の参加を募り、教育力を生かす。

<利用状況>

- ・ 園児の登降園の際に参観・参加したり、話をしたりして数名程度の利用がある。
- ・ 餅つき会を祖父母参加により実施した。
- ・ 女性の利用者が多いなかで、男性の利用者も増えている。
- ・ 園児の活動の写真をカレンダーにしてくださった。

事業の実績、成果

- ・ 餅つき会へのお手伝いを依頼したところ、積極的な活動参加があった。
- ・ 参加者がいきいきとして活動する姿が見られ、園児との交流も十分に図られ、幼稚園が地域のふれあいの拠点となっている。

工夫した点

- ・毎日を幼稚園開放日とすることで、祖父母や高齢者に気軽に来てもらえるようにした。
- ・特別の行事を企画するのではなく、保育の中に参加して園児たちと触れ合いがもてるようにした。



事業の財源

平成23年度地域支えあい体制づくり補助金で備品を購入。
高齢者との交流の運営に必要な教材費は、市予算で対応している。

課題

- ・男性の方にも参加していただき、活躍できる活動及び場面の工夫をしていきたい。
- ・地区公民館や地区子育て支援ネットワーク委員会と連携して、子どもと地域住民との交流事業を実施していきたい。

今後の目標

- ・それぞれの方の趣味や特技を披露したり、伝えたりしながら、生きがいを持った生活を送ることができるようにするための取り組み。
- ・幼児と関わり、共に遊ぶことを通して、人のぬくもりや優しさ、知恵などを自然な形で伝えていけるような場所づくり。

団体からのメッセージ



地域とのかかわりが大変強い幼稚園です。
園児が地区の敬老会・高齢者教室などに参加する一方、祖父母や高齢者の方々にも地域ボランティアとして、給食畑や田の支援、餅つき会などのお手伝いとしてどんどん園に来て頂いています。
ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

ひがしっこ交流事業 (鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市新横江地区
実施主体 鯖江市鯖江東幼稚園
所在地 鯖江市新横江2丁目6-37
代表者 園長 吉村 隆之



平成23年度の事業概要

近隣の高齢者や地域の人が交流できる居場所づくりのために、備品を整備した。

- ・テレビやCDデッキ等を設置し、園児たちとふれあい交流できる場をつくった。
- ・「おじいちゃんおばあちゃんと遊ぼう会」に来ていただき、昔遊び（お手玉・こま）や折り紙をしたり、CDラジカセをかけてまりつきを見ていただいたりした。また、音楽に合わせて一緒に遊んだり、大型絵本を読みながら交流した。

現在の活動状況

新横江地区のお年寄りのパワーを、園児たちに提供していただくという意味で、視聴覚教材を活用するとともに新しい企画を盛り込んで行事を進める。

〈概要〉

園の行事と一緒に参加していただき、園児と楽しく交流する。

- ・お年寄りと一緒に歌ったり、踊ったり等楽しい場を共有する。
- ・CDラジカセやテレビを利用して体を動かしたり、大型絵本をみたり、園で採れた野菜を調理して食べていただく。
- ・コスモス畑におじいちゃんおばあちゃんと一緒に散歩に行く。

事業の実績、成果

地域の高齢者の方の力をお借りして、園児がいろいろなことに興味をもっていくことは、とても大切なことだと感じた。

一緒に食事をしたり、昔遊びを見せていただいたりして、尊敬のまなざしで高齢者と触れ合えたことは、優しい気持ちが育まれることに加えて、良いことだと感じた。

今後は、参加を誘い合わせてもらったり、ポスター・チラシを利用し宣伝したりしていきたい。

工夫した点

来ていただく高齢者に負担のないよう、職員が気を張りながら声をかけるようにした。
少しでも幼児と触れ合っていたるように4、5歳児全員とお年寄りとは握手をしてあいさつをした。



事業の財源

平成23年度地域支えあい体制づくり補助金で備品を購入。
高齢者との交流の運営に必要な教材費は、市予算で対応している。

課題

散歩に慣れている高齢者が対象となる企画だったので、園に来て幼児と触れ合えることができる企画を考えると良いと思う。
今後は、園児の生活をもっと身近に感じていただき高齢者の生きがいを感じられる行事にしていきたい。

今後の目標

暖かい時期には、散歩コースのひとつのような感覚で園に来ていただけるようになるとうい。



団体からのメッセージ

新横江地区にお住まいの方、春は、樹木の剪定、冬は、こま回し、あやとり、おてだま、まりつきの披露など、幼児たちのために幼稚園にお力をおかしてください！！

問合せ先： 鯖江市鯖江東幼稚園

(TEL : 0778-52-5696

FAX : 0778-52-5696)

【3-2】日常生活支え合い実践事業

かたかみ交流の場づくり事業 (鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市片上地区
実施主体 鯖江市片上幼稚園
所在地 鯖江市大野町16-6
代表者 濱野 和広



平成23年度の事業概要

近隣の高齢者や地域の方が交流できる居場所づくりのために、テレビやCDデッキ等の備品や絵本を整備した。

〈地域との交流会〉

煎茶教室、近松音頭教室、ミュージックタイムなどの講師として幼児教育に力を発揮される地域の高齢者から伝承遊びを教えていただきながら、交流を深めた。

〈体操教室の開催〉

地域の高齢者や保護者・未就園児親子と一緒にCDラジカセを使って体操教室を体験し、共に体を動かす爽快感を味わいながら交流を深めると共に園行事のビデオを鑑賞することにより、幼稚園に親しみを感じ、理解を求めながら園児との交流を図った。

現在の活動状況

〈茶道教室〉

月1回教室を開き、月に4・5名の高齢者の方が講師として来園している。1月には、茶道教室後にお楽しみ会を企画して幼児との触れ合いを楽しんだ。

〈近松音頭教室〉

週1回行っている。習った踊りは、地区のお祭りや文化祭などで披露している。

〈高齢者宅訪問〉

金柑とり体験のほか、ドングリ拾いや、メダカの観察の場の情報をいただき、交流の機会を増やした。

〈ちまき作り体験〉

地区の婦人福祉の方と共同で、地域の高齢者の方にご指導いただきながら、ちまき作り体験を行った。

〈ありがとう会〉

お世話になった地域の方を幼稚園をお招きして、視聴覚機器を活用しながらゲームをしたり歌を歌ったりして、楽しいひと時を過ごした。

事業の実績、成果

- ・高齢者が地域に出るきっかけとなると共に、相互の交流が図られ、幼稚園が地域のセンター的役割の一端を担うことができた。

工夫した点

気軽に園児と触れ合いの場として利用しやすいよう心がけた。



事業の財源

平成23年度地域支えあい体制づくり補助金で備品を購入。
高齢者との交流の運営に必要な教材費は、市予算で対応している。

課題

同じ人との交流が多く、交流の輪が広がっていない。
年間を通して開放してはいるが、地域住民がもっと気軽に訪れることができるような工夫が必要である。

今後の目標

- ・ 視野を広め、様々な情報を収集して、幼児がいろいろな体験を地域の方から学べる事業計画を盛り込んでいきたい。
- ・ 地域の高齢者の実態を関係機関との連携により把握し、園開放日に多くの高齢者が訪れることの出来る地域に開かれた園作りに努めていきたい。

団体からのメッセージ

「元気いっぱい かがやく子」を育成しています。

元気な『もんじゅっこ』と一緒に、元気に過ごしましょう。



【3-2】日常生活支え合い実践事業

こども園における地域の方との交流の場作り

(鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市 豊地区
実施主体 鯖江市ゆたかこども園
所在地 鯖江市上野田町2-9
代表者 園長 笹本憲子



平成23年度の事業概要

近隣の高齢者や地域の方が交流できる居場所づくりのために、テレビやCDデッキ等の備品や絵本を整備した。地域の高齢者や園児の祖父母を園に招待し、視聴覚教材を利用し一緒に遊びながら交流を深めた。

〈わらべ歌で遊ぼう〉

- ・地域のお年寄りや祖父母を招待し、視聴覚機器を活用し、伝承遊びやふれあい遊びをしたり、リズム体操をして体を動かしたりして一緒に遊んだ。

〈ふれあい遊びをしよう〉

- ・サツマイモの苗植えや収穫でお世話になった地域のお年寄りを招待して、園児の手作りの首飾りをプレゼントしたり、一緒にふれあい遊びをしたりして遊んだ。

現在の活動状況

〈概要〉

- ・地区公民館や地区子育て支援ネットワーク委員会、老人会等と連携して、子どもと地域民との交流事業を実施する。
- ・高齢者との関わりを主とした世代間交流の様子をおたより等通して保護者や地域住民に伝え交流事業の啓蒙を図る。

〈実施状況〉

- ・年間5～6回
- ・地域のお年寄りや祖父母を招待し、視聴覚機器を活用し、伝承遊びやふれあい遊びをしたり、リズム体操をして体を動かしたり、手作りおもちゃを作って遊んだりした。
- ・サツマイモの苗植えや収穫でお世話になった地域のお年寄りを招待して、サツマイモの蔓で作ったリースをプレゼントしたり、一緒にふれあい遊びをしたりして遊んだ。
- ・講師を呼んで、歌とふれあい遊び、伝承遊びを楽しむ機会も設けた。
- ・遊びや交流の様子をシャトル便やブログなどで紹介している。

事業の実績、成果

- ・約10～30名の地域のお年寄りと、60名以上の祖父母の参加があった。
- ・お年寄りと子どもの触れ合う姿が自然になってきた。また参加されたお年寄り同士の親交も深まってきているように思える。
- ・園児とその祖父母が、伝承遊びを共有できた。

工夫した点

- ・園にお年寄りが足を運んでくださったときは、少しの時間でもふれあう時間を持ち、交流できるよう心がけた。
- ・交流では、家庭でも祖父母と一緒に遊べるような伝承遊びを取り入れた。
- ・発達に合わせた内容と場所、時間など環境設定を工夫した。



事業の財源

平成23年度地域支えあい体制づくり補助金で備品を購入。
高齢者との交流の運営に必要な教材費は、市予算で対応している。

課題

- ・地域や祖父母からの要望はあるが、園の行事とのかねあいから限界がある。
- ・サロン（老人会）の方は高齢で、園児の祖父母との間には年齢層に幅があり、一度に集まるには無理な部分もあった。活動（畑作業、リズム遊びなど）や時期によって、機会を分けると良かった。

今後の目標

- ・地元の老人クラブや公民館、子育てネットワーク委員会、民生委員など地域にかかわるネットワークの中で協力し合いながら、引き続き交流を行っていききたい。
- ・地域の方が園に来られたとき、子どもたちの方から、自然な挨拶ができるように育てていきたい。



団体からのメッセージ

こども園は、子どもから高齢者まで地域に住む者同士が、ふれあい、つながりを深めていくことのできる交流の場です。
どうぞ、お気軽にお立ち寄りください。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

児童センターにおける地域住民の交流の場づくり事業 (鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市神明町4・5丁目
実施主体 鯖江市（児童福祉課 鳥羽中児童センター）
所在地 鯖江市神明町4丁目7-55
代表者 館長 落合 忠雄



平成23年度の事業概要

市内の神明地区にある「鳥羽中児童センター」のトイレを洋式トイレへ改修することで、高齢者の方々が利用しやすい施設に整備し、もってサロン「ほほえみ」の活動および地域交流活動を充実させる。

- ・洋式トイレへの改修工事
- ・地域交流事業の充実

現在の活動状況

平成24年3月から、1～2月に1回児童センターが主催し児童センターの児童と「サロン・ほほえみ」の高齢者の方々との交流事業を実施している。
お年寄りから伝承遊びを教えていただいたり、おはぎ作り等料理教室、雛人形作り等を実施し、穏やかなふれあいの場を提供。

<概要>

およそ月1回児童とサロン「ほほえみ」の高齢者の方々とのふれあいの場を提供

<利用状況>

1回の行事開催に高齢者の方10名程度参加（児童約15名）

事業の実績、成果

◎1回の行事開催に高齢者の方10名程度参加

- ・お年寄りとの触れ合いの独特な和やかな雰囲気の中で、子どもたちがお年寄りに親しみを感じている様子が見れる。
- ・子どもたちが知らないお年寄りの知恵を教えてもらっている。
- ・またお年寄りも子どもたちから元気（パワー）をもらっている。

工夫した点

サロン終了後お年寄りと児童との交流事業を行っており長時間となるため、高齢者の方々の身体的・精神的負担にならないよう配慮している。



事業の財源

児童センターの運営費より消耗品等購入している。

課題

サロンに男性登録者がいないため、閉じこもりがちな男性高齢者の居場所づくりにはつながっていない。

今後の目標

今後地域の子どもたちと高齢者が交流できる事業を出来るだけ実施し、当該児童センターを地域の世代間交流の拠点としたい。



団体からのメッセージ

今後地域の皆さんの交流の場としての機能を充実させ、鳥羽中児童センターはこの地域になくてはならない施設、と皆さんに思ってもらえるよう頑張ります。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

地域住民の交流の場づくり事業 (鯖江市)

基礎情報

実施地域 鯖江市新横江地区
実施主体 鯖江市
所在地 鯖江市定次町108番地
代表者 鯖江市長 牧野百男



平成23年度の事業概要

市内の新横江地区にある「いきいき未来館」は児童センター併設のため、これを活用して、地域住民との交流、世代間の交流の拠点としての機能を有する施設に整備する。

- ・新横江児童センターの遊戯室と多目的ホールのバリアフリー化、老朽化が進んだ壁・床の改修
- ・地域交流事業の運営

現在の活動状況

児童センターが児童対象に行っていた毎月の行事を子ども会リーダー会と児童センター児童厚生員で企画。毎月趣向を凝らした企画で地区内の様々な方（高齢者の方中心）に行事のお手伝いをいただいている。ゲーム、紙飛行機づくり、木工教室、折り紙、当館で実施している「いきがい講座」の受講生の方からマジックやハーモニカを披露していただくことも。また行事運営に母親クラブ（高齢者の方中心）に携わっていただいております。食事のお世話等もお願いしている。他に児童対象に週1回囲碁教室・月1回茶道教室を開催し、地域のお年寄りに講師をお願いしている。

<概要>

月1回の児童センター主催の児童対象の行事に高齢者を中心とした地区住民の方に様々な形でお手伝いいただいている。

地区住民と児童が同じ場所で顔を合わせて交流できる機会を演出する。

<状況>

月によって異なるが、月1回の行事開催で10名程度の高齢者の方にご協力いただいている別に、食事等のお世話をお願いしている母親クラブの方々はほとんど65歳以上の方10名程度

事業の実績、成果

月によって異なるが、月1回の行事開催で10名程度の高齢者の方にご協力いただいている別に、食事等のお世話をお願いしている母親クラブの方々はほとんど65歳以上の方10名程度

午前中「いきがい講座」を受講しているお年寄りにとって、児童の前で日頃学んでいることを発表するのは、いい刺激（いきがい）になっている。

また核家族が進み日頃お年寄りとふれあうことの少ない子どもたちにとっても、地域の様々な方に見守られ地域に育てられていることが分かり安心感を与えている。

工夫した点

お年寄りに過度な負担をかけないよう、和やかに児童とのふれあいを楽しんでもらえるよう、場の雰囲気づくりに配慮しています。



事業の財源

平成23年度の地域支え合い体制づくり事業補助金で、バリアフリー化・床等を改修。交流事業の運営に必要な消耗品費・食糧費・講師謝礼は、児童センター管理運営費および放課後子ども教室推進事業運営費で対応している。

課題

来館者の方もある程度まで固定化されており、閉じこもりがちな高齢者の居場所づくりにはなっていない。

今後の目標

地域の人にとってより身近な施設となるよう交流事業を充実させ、高齢者と児童だけではなく地区全体の人が集える地域交流の拠点として整備したい。

団体からのメッセージ



子どもたちの笑顔や笑い声がいっぱいの施設です。子どもたちと高齢者の方が自然に同じ空間でふれあっています。遊びにいらしてください。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

春駒の会交流の場づくり事業 (越前市)

基礎情報

実施地域 越前市東地区
実施主体 春駒の会
所在地 越前市天王町1-2-33
代表者 代表 泰圓澄 一法



平成23年度の事業概要

市内の東地区にある、旧料亭春駒の一部を改修し、備品を配備することで、高齢者等が、いつでも気軽に集まれる居場所づくりを行う

- ・入り口階段にスロープを設置し、足腰の悪い高齢者でも、車いすでも施設を利用できるようにした。
- ・座敷にテーブルを置き、ひざの悪い人も施設を利用できるようにした。
- ・テレビや碁盤を置き、自由に楽しめるようにした。
- ・ポット、急須、お茶は各自自由に使える（無料）
- ・その他、お菓子やコーヒーは各自実費で利用できるようにしてある。
- ・夏はユトンを敷いたり、御簾を下げたりして夏の風情を味わってもらっている。

現在の活動状況

平成24年4月から、毎週水曜日に地域住民に対して施設を開放している。

利用料は1日100円

〈概要〉

通常の貸館は、年中無休、予約制で運営している。（管理運営はNPO活動団体 春駒の会）
毎週水曜日午前10時～午後3時までの5時間は、上記とは別枠で開放、誰でも自由に出入りすることができる。

お茶は無料で飲むことができる。（お菓子やコーヒーは実費）

〈維持管理〉

鍵の管理および毎週水曜日の管理・運営もNPO活動団体 春駒の会が行う。

〈利用状況〉

月平均10名程度の利用がある

利用者のほとんどは、65歳以上の女性

事業の実績、成果

- ・月平均10名程度の利用がある。利用者の多くは65歳以上の女性。
- ・毎月例会を開催する男性団体があり、男性の高齢者の居場づくりとして役立っている。
- ・公民館や地域の高齢者団体に案内チラシを配るなど広報に努めた。

工夫した点

水曜日の解放日以外に、年間延べ約200人の利用者があり、ひざの悪い高齢者の方々にテーブルの設置は大変喜ばれている。

特定の人に負担をかけないように、イベントなどは特に企画していないが、地域のコミュニティの場として、高齢者がゆっくりと楽しんでいられる雰囲気づくりに努めた。

また、障害者の方にも利用しやすいように、スロープを購入し、利用してもらっている。



事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金で、備品等を整備。運営に必要な光熱水費と食糧費、及び人件費などは、春駒の会で対応している。

課題

以前より、旧料亭“春駒”の再生活用として、貸館として地域の方に利用していただいていた。特に週1回の水曜の利用者が増えたわけではなく、水曜日の無料開放の周知が、まだ不足している。

広報の方法を工夫し、新たな利用者拡大を図る必要がある。駐車場がないことも課題である。

今後の目標

高齢者だけでなく、長期休暇中の子ども達も気軽に集まり高齢者との交流の場になるよう地域の人たちにPRしたい。

広く施設を知っていただく機会を設け、利用者の口コミにより、どんどん利用の輪を広げたい。

団体からのメッセージ

昔ながらの風情のある建具やしつらえの“旧料亭春駒”でゆっくり、のんびりおくつろぎください。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

地域の居場所づくり (越前市)

基礎情報

実施地域 越前市東部国高地区
実施主体 越前市式部ふれあい自治会
所在地 越前市国高1丁目13番地11
代表者 会長 大谷 桂子



平成23年度の事業概要

越前市東部国高地区にある「式部ふれあい館」(昭和53年建設)は、高齢者の学習の場としての利用が多くを占めている他、選挙時の投票所として、又、避難所としての位置付けもあることから、玄関の一部を改修しスロープを設けた。

現在の活動状況

- ・ 平成24年4月より毎月第3金曜日を当館の無料開放日として実施中
- ・ カイロプラクター免許所有者による無料の骨盤体操教室を週1回(4月~9月間)行った。
- ・ 中・高齢者向けの「やさしい大人の体操」を気候の良い5月~8月に行った。
- ・ 他の期間中は、特段利用者を制限せず、ダンスや吟舞、料理、歌等々の利用者に開放している。

事業の実績、成果

- ・ 無料開放日 利用者 46名
- * ロビーや小部屋を利用し、談笑を楽しんだりテレビ視聴等で休憩をした。

- ・ 骨盤体操教室 利用者 164名
- ・ やさしい大人の体操 利用者 43名
- * 利用者は60歳以上であるが、進んで参加し骨盤が矯正されたり足腰が軽くなったと喜ばれている。

工夫した点

職員一丸となり、一人一人に参加への声かけを常に心がけ、どちらかと言えば引き籠もりになりがちな中・高齢者を誘った。



事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金で、玄関の一部を改修しスロープを設けた。平成24年度以降の運営費は、労働者福祉施設管理事業の指定管理者委託料で運営。

課題

車で来館される方が多く、駐車スペースの有無を考えながら事業を実施しなければならない。

今後の目標

24年度事業は、絶賛の声が聞かれたので継続して実施をし、ハツラツとした中・高齢者になって頂き、ますます元気で明るく・楽しく当館を利用して頂ける様手助けをしていきたい。



団体からのメッセージ

家に閉じ籠もらずに一度覗いて見て下さい。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

武生東公民館高齢者いきいきふれあい事業 (越前市)

基礎情報

実施地域	越前市東地区
実施主体	武生東公民館・東地区自治振興会
所在地	越前市府中1丁目13-15
代表者	館長 永田 紘一 会長 谷口 武男



平成23年度の事業概要

引きこもりがちな高齢者や障害を持つ人が、安全に公民館施設を利用することを可能とし、公民館や地域の催し物に気軽に参加してふれあいの場を持つことができるようにする。

- ・ 玄関車椅子用スロープの上がり口にチャイムを設置して、職員が車椅子等の介添えができるようにした。
- ・ トイレの利用を安全にするために、トイレ入り口通路の段差（1箇所）を解消し、手すり（3箇所）を設置した。
- ・ 登録制の学級を誰でも参加できる体制とし、ふれあいの場をふやした。

現在の活動状況

- ・ これまでの高齢者学級をふれあい講座として、いろいろな体験・学習を実践している。
- ・ 公民館の1室を地区のサロンとして、広く利用してもらうための準備を進めている。
 - ① 第1講義室をサロンにする。
 - ② 図書をそろえたり、座り心地の良い椅子を設置するなど入りやすい雰囲気工夫している。
 - ③ 部屋をギャラリーとしても活用し、利用者に楽しんでもらう。
 - ④ 喫茶コーナーも設置の予定。
 - ⑤ 部屋のサロン化を、広報にて住民に周知。
- ・ 乳幼児のお母さん達にも、休憩の場として利用してもらえるようになっている。

事業の実績、成果

- ・ 館内のバリアフリー化は、高齢の利用者に喜ばれている。
- ・ サロンは本格的な利用はまだだが、くつろぎ空間としてすでに利用されている。
(自主講座の後のおしゃべりや、地域事業の協力者の休憩の場として)
- ・ 地域の年賀状展を開催中。
雛人形も飾り、季節を楽しんでもらっている。

工夫した点

- ・サロンは基本的に毎日利用可能
- ・地域住民の気軽な居場所として、くつろげる雰囲気とする
- ・時には、折り紙教室などミニ講座を開催する
- ・ギャラリーとして作品などの展示をして、出入りのしやすいイメージとした



事業の財源

平成年度23地域支え合い体制づくり事業補助金にて、トイレ入り口通路の段差解消や手すり設置等を整備。

平成24年度以降の施設の管理は、公民館が対応し、食糧費や講座の材料費などは自治振興会が負担。

課題

- ・次年度からの本格始動ということで、地域への周知・利用をよびかける。
- ・利用者が固定しすぎないように工夫すべきか
- ・地域のボランティアによる（交代制）利用者の見守りも必要かと思う
- ・元気なのに、外に出たがらない高齢者を呼び込む工夫

今後の目標

- ・高齢者の居場所として、健康長寿に役立つ場となること。
- ・世代の違う利用者の自然な交流の場となってほしい。
- ・高齢者も自分にできる役割を実感できるようになると良い。
…子どもの見守りや若い母親の話し相手など
- ・自宅では核家族でも、地域では三世同居のような場となることを期待する。

団体からのメッセージ



だれにでも利用していただけるサロンです。
みんなとふれあいながら、あなたのペースでお過ごしください。
気軽においでくださいね。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

坂口公民館里地里山ふれあい事業 (越前市)

基礎情報

実施地域 越前市坂口地区
実施主体 越前市坂口公民館
所在地 越前市湯谷町24-18-1
代表者 館長 富田 博文



平成23年度の事業概要

子どもから高齢者までが、地域で明るく元気に生きがいをもって暮らせるよう、公民館において多様な学びと交流の場を提供する。
特に足腰の弱い高齢者、引きこもりがちな高齢者、身体に障害のある方にも足を運んでもらい、子どもたちとのふれあいや学びの場として公民館を活用してもらう。

公民館のバリアフリー化

- ・玄関の簡易スロープ設置
- ・トイレ引き戸設置
- ・トイレの縦手摺り取付け
- ・照明スイッチ移設

現在の活動状況

平成24年4月から、更なる高齢者のふれあいの場を実現させるため、ニュースポーツ教室、健康相談会、講演会を拡充し開催。

〈概要〉

ニュースポーツ教室(囲碁ボール・ユニカール・ラージボール・スカットボール・ペタンク)
健康相談サロン、生きがい講演会の実施。

〈維持管理〉

地域団体事業、市町村事業、公民館事業を連携し公民館を拠点に開催。

〈利用状況〉

月、50名程度の利用がある。

事業の実績、成果

高齢者がふれあいの場に参加し、人と出会うことで身近な生活情報や地域情報を得られることから、参加意欲の向上が見られる。

工夫した点

- ・いつでも誰でもが参加できるよう、ニュースポーツの開催日を増やした。
- ・参加者の声にも耳を傾け、取り組み内容に取り入れるようにした。
- ・区長、民生委員、福祉推進員から、ふれあいの場への誘いをかけてもらうなど一人でも多くの方が参加できるように努めた。



事業の財源

光熱費は市負担、運営費は市事業と公民館事業のタイアップによる。
食糧費などは地域団体助成および個人負担。

課題

坂口地区は、コウノトリをシンボルとした環境にやさしい里地里山の魅力発信に努める地域ですが、少子高齢化が急速に進み深刻な問題となっており、高齢者がこれからも里地里山活動に活躍してもらえるよう、日頃の住民同士の交流と高齢者を支える居場所となるべき取り組みを理解し、それに関わってもらえる人材の発掘が緊急課題です。

今後の目標

今後、高齢者の居場所の拠点としてもっと多くの方々に公民館を利用してもらい、住民同士の顔の見える地域にしていくため、今後も取り組み内容にアイデアを盛り込み、地域住民の元気になげしていきたい。

団体からのメッセージ



人と人のつながりの中で、健康で明るく地域で過ごすために公民館へ足を運んでみてください。
みなさんの毎日が充実し、生きがいを感じる場所になることを願っています。
暖かな陽だまりのようなひとときを過ごしませんか。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

地域ふれあい活動拠点整備事業

(南越前町)

基礎情報

実施地域 南越前町今庄地域
実施主体 特定非営利活動法人 今庄旅籠塾
所在地 南越前町今庄第75号13番地
代表者 理事長 高嶋秀夫



平成23年度の事業概要

まちづくりと賑わいづくりのために、当NPO法人が借用している建物(旧旅籠宿「若狭屋」を今庄地区の高齢者のつどいや今庄を訪れた人への休憩所等に提供していたが、当該建物には使用できるトイレがなく、近隣のトイレを借用しており、高齢者等地域住民が気軽に利用できない状況にあった。

旧旅籠宿を改修(多目的トイレ等)し、地域住民が気軽に集える施設として、多目的トイレ(男女障害者兼用)1台・男性用便器1台・手洗いを整備した。

現在の活動状況

地域住民が気軽に集える施設として、年間を通じ、毎週土日・祝日に自由に集える場所として開放

(会員の当番制)。

現在、通年開放をめざしている。

5～10月：野菜夕市(毎週水曜日15時～)の場所の提供。

6月：地区高齢者の集いを開催 参加者約30人。

9月：今庄地区イベント街道浪漫において、ふれあいの場提供。そば店などが開かれた。そば好きの若い年代の人たちや高齢者も多数訪れた。

3月：手作りパンとコーヒーのカフェをオープン予定

(旅籠塾において、パンを焼き、入れたてのコーヒーを提供)

その他

今庄宿の歴史や今庄旅籠塾の活動についての講演を地区や町内外で実施している。

事業の実績、成果

トイレを整備することにより、高齢者や地域住民がより快適に集える施設となった。

念願の通年開放を3月を目途に取り組んでおり、住民相互のふれあいの場として有効に活用されている。

工夫した点

自由に集える場所として開放（会員の当番制）するにあたり、皆で協力して行っている。定例会を設けて活動内容を検討したり、そば打ち会をしたりして親睦を深め、自発的な楽しい活動ができるようにしている。



事業の財源

- ・平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金により洋式トイレを設置
- ・他の設備については会員等の協力で整え、経常経費については、会費、講演料や募金(協力)などで賅っている。

課題

イベントや集いや野菜夕市のときは利用が多いが、普段は高齢者の利用が少ない。

今後の目標

今庄宿の歴史を伝え、地域に根付いた地道な活動を守り育て、地域住民がふらっと立ち寄れるコミュニティの場づくりに努めたい。
地域の活性化は、住んでいる自分たちが取り組むべきだということを内外に伝えていきたい。

団体からのメッセージ

今庄地域には、まだまだ住民同士の思いやりやつながりがありますが、それでも地域のつながりが薄れつつあります。
だからこそ、住民のコミュニティの場づくりが大切だという思いで活動していますが、皆が楽しんでできることがよいと思います。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

世代間交流の場づくり事業

(南越前町)

基礎情報

実施地域 南越前町南条地域
実施主体 南越前町
所在地 南越前町東大道29-1
代表者 町長 川野順万



平成23年度の事業概要

- ・南条保健福祉センターに料理教室用機材（ガスオーブン、ホットプレート等）を整備。
- ・パン作り等を通じた世代間交流
 - 南条地区老人クラブ会員と南条子育て支援センター利用保護者との交流
→参加者12人
 - 南条地区高齢者団体と南条子育て支援センター利用保護者・子どもとの交流
→参加者16人
 - 南条子育て支援センター利用保護者・子ども・祖父母の交流
→参加者15人

現在の活動状況

パン作り等を通じて世代間交流を図った。

- ・手作りパンを作ろう
南条地区老人クラブ会員と南条子育て支援センター利用保護者・子どもとパン作りをしながら交流 平成24年9月実施。
→（参加者16人：高齢者5人＋利用保護者・子ども11人）
- ・手作りおやつを作ろう
独居高齢者とボランティアが小判焼き作りをしながら交流 平成25年1月実施。
→（参加者22人：独居19人＋若年3人）

事業の実績、成果

- ・南条子育て支援センター利用する若い保護者や子どもたちは、高齢者との交流がないことも多く、楽しいパン作りを通じて互いが理解し合える場となった。

工夫した点

南条地区老人クラブ会員と南条子育て支援センター利用者との交流では保育士が見守った。
独居高齢者と地域の団体との交流では社協職員が見守った。

事業の財源

- ・平成23年度の地域支え合い体制づくり事業補助金で備品を購入
- ・南条地区老人クラブ会員と南条子育て支援センター利用者との交流消耗品費（材料代）：町一般財源
- ・独居高齢者と地域の団体との交流消耗品費（材料代）：町社協共同募金助成金

課題

住民が自由に利用できる設備であるが、利用が伸びない。

今後の目標

継続的に料理教室を開催し、高齢者と若い世代とのふれあい交流を深める。



団体からのメッセージ

核家族化、2世帯同居や共働きの増加により、幅広い年代が接する機会が少なくなっています。
初めて高齢者と間近に接する子どもたちもいますので、世代間の交流の場を提供していくことは大切だなあと 생각합니다。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

認知症高齢者見守り事業 (越前町)



基礎情報

実施地域	越前町
実施主体	越前町
所在地	越前町西田中13-5-1
代表者	町長 内藤 俊三

事業概要

- ・介護認定を受けていない人も含め、軽度の認知症のある高齢者を対象に、拠点施設に於いて見守りを行い、高齢者が持っている能力を維持しながら、少しでも症状の進行を遅らせ、安心して日常生活を送ることが出来るよう支援を目的。
- ・越前町シルバー人材センターへ事業委託

現在の活動状況

- ・当該高齢者に対するふれあいの場を提供。
「幸若苑」(老人福祉センター) 月～金曜日 9時～15時
「織田保健福祉センター」 月曜日・金曜日 9時～15時
- ・内容・・・当該高齢者が、調理などの活動を通して交流する。
- ・当該高齢者が現在もてる能力を維持するため、調理活動用調理器具等を購入し、気軽にくつろげる雰囲気をつくる。
- ・体の体操・運動(レクリエーション)を実施。
- ・折り鶴・パズルなど趣味を活かした活動を実施。
- ・和室にエアコンを取り付け、夏場の熱中症を予防対策。

事業の実績、成果

- ・当該高齢者が、家で閉じこもっていることがなくなり、介護保険の認定申請をするほどの認知症や身体能力の衰退が進行しないよう、元気で在宅生活が送れることが期待できる。
- ・時間に縛られることなく、自由な時間を過ごせた。
- ・家族介護者と離れる時間を作ることで、介護者のリフレッシュにつながり、認知症高齢者の虐待防止につながられる。

工夫した点

- ・当該高齢者が現在もてる能力を維持するため、調理活動用調理器具等を購入し、おやつ等を調理しみんなで会食を行っている。
- ・体の体操・運動（レクリエーション）を実施。
- ・歩行訓練を実施。
- ・折り鶴、パズルなど趣味を活かした活動を実施。



事業の財源

- ・平成23年度の地域支え合い体制づくり事業補助金で、施設の改修、調理器具等を導入。
- ・次年度以降に係る、運営費（シルバー人材センターへの委託料）は町の一般財源。

課題

- ・利用できる対象者の把握と利用促進。

今後の目標

- ・対象者の把握と利用の促進。



団体からのメッセージ

楽しく笑いの絶えない居心地のよい居場所を目指しています。

「いきいき教室」では、仲間と話しをしたり、軽い体操や趣味を活かした活動など、自由な時間を過ごせ、笑いがたえず、利用者一人一人が主役になれる場所です。家に閉じこもって時間を過ごさず、ふらっと寄ってみてください。きっと楽しみが見つかると思います。

問合せ先：越前町 高齢福祉課

(TEL : 0778-34-8711(直) FAX : 0778-34-0951)

【3-2】日常生活支え合い実践事業

認知症高齢者等家族介護者支援事業

(越前町)

基礎情報

実施地域 越前町
実施主体 越前町
所在地 越前町西田中13-5-1
代表者 町長 内藤 俊三



事業概要

- ・認知症の高齢者を在宅で介護している家族の身体的、精神的負担の軽減を図り、要介護者高齢者と家族介護者が在宅生活を継続できるよう支援。
- ・越前町社会福祉協議会へ事業委託

現在の活動状況

【家族介護者サロン】

認知症の高齢者を在宅で介護している家族の身体的、精神的負担の軽減を図り、要介護者高齢者と家族介護者が在宅生活を継続できるよう支援を行うためのサロンを開設。

- ・委託先：越前町社会福祉協議会
- ・会場：4地区（朝日、宮崎、越前、織田）

【介護出前講座の開催】

家族介護者へ、らくらく介護法を学べる介護講座の開催。

事業の実績、成果

- ・介護することが負担となっている家族が、話し合いながら和気あいあいと工作などを行いことで、身体的・精神的な負担を軽減でき、よりよい在宅介護の向上や高齢者虐待防止につながった。



工夫した点

- ・介護者自身が要介護者にならないように、認知症予防のための講座や、介護予防体操を取り入れた。
- ・介護を終えた方も引き続き参加していただき、経験からのアドバイスをもらった。



事業の財源

- ・平成23年度は、地域支え合い体制づくり事業補助金を活用。
- ・次年度以降に係る経費は町の一般財源。

課題

- ・参加者が少ない。
- ・サロン開催時間と、介護の合間の時間が合わないことで、参加できない人がいる。
- ・会場までの交通手段がない。

今後の目標

- ・サロンに気軽に立ち寄れるよう、訪問や、広報による周知に努め、利用者増を図る。
- ・より在宅介護が充実するための講習・研修会の開催。(住民教育)
- ・相談しやすい場の提供。



団体からのメッセージ

毎日の介護、本当に大変です。同じような悩みを抱えている人たちが、お茶を飲みながらおしゃべりをしたり、手作業を楽しんだりして、サロンに来ている間は介護を忘れて笑顔になって、ストレスを解消して下さい。

明日からの介護に少しでも力になりたいので、ぜひ一度サロンに立ち寄ってください。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

空き家を活用した集い場づくり

(美浜町)

基礎情報

実施地域 美浜町耳地区
実施主体 美浜町社会福祉協議会
所在地 三方郡美浜町郷市25-20
代表者 会長 中村 博昭



平成23年度の事業概要

耳地区にある、河崎さん宅を一部改修し、河原市区を中心とした町民に気軽に集える場として活用してもらう。高齢者、子ども、障がい者にも使いやすい場となるよう改修を行う。

- ・玄関外まわりの改修—外からでも見やすく開放的な雰囲気をつくる
- ・縁側の改修—大きな窓に改修し、家の中にも通る人に声をかけやすく、縁側でおしゃべりができる空間をつくる。
- ・キッチンの壁撤去、床の張替え—誰でも使いやすく、気持ちよく使える空間づくり

現在の活動状況

平成24年4月から運営委員会を立ち上げ、活用方法や管理、運営について検討を重ねる。

6月29日～7月1日までの3日間 見学会を実施 のべ80名来所

7月29日 開所

《概要》

利用対象者：耳地区住民を優先的に、誰でも利用することができる

利用可能日：365日いつでも利用可（ただし、使用申請が必要）

利用時間：原則9：00～21：00

《維持管理》

鍵の受け渡しは、原則社会福祉協議会で行う。場合により、河原市区長もしくは隣のお宅で受け渡し可。使用後は、使用したものが掃除、施錠を行う。その他、必要な消耗品等は運営委員会で検討し、必要に応じて社協で補充する。

《利用状況》

サークル活動や、子どもの勉強会、区の寄り合いなど多様な利用がある。

事業の実績、成果

7月29日の開所以降、29件、のべ約180名の利用がある。

折り紙サークルの定期的な使用や、子どもたちの勉強会、看板作り、高齢者のわなげあそびなど様々な年代が多種多様に活用している。

『家』を使っていることで、あたたかみがあり、くつろぎやすいという声も聞かれている。気軽に使えることが定期的な利用につながり、空間を共有することで新たな交流も生まれている。

また、庭の草刈を区の住民が積極的に行うなどの活動も生まれている。

工夫した点

活用方法など、実際に利用する住民で考えてもらえるよう運営委員会を立ち上げて検討を重ねた。備品などは必要以上に準備せず、住民で持ち寄る方法をとったことで、自分たちでつくりあげる集い場として愛着を深めた。子どもたちにも積極的に声をかけ、誰でも使える場としての認識を高めた。



事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金を活用し、空き家を改修した集い場づくりを実施。運営に必要な光熱水費、消耗品等は、美浜町社協の一般財源で対応している。お茶菓子等は、使用者の持ち込み。備品は寄付等で整備
※今後、利用料を徴収するなど、運営費の確保について検討していく。

課題

- ・移動手段がない高齢者や障がい者などの利用につなげにくく、「生活支援の仕組みづくり」で購入した車両を活かしきれていない。
- ・駐車スペースをどう確保していくか。

今後の目標

- ・活用の幅を広げ、さらに多くの方に利用してもらえる場としていきたい。
- ・学校帰りの子どもが宿題をしたり、地域の方と一緒に遊びをしたりしながら、世代間の交流を深めていきたい。
- ・財源を生み出していく活動を検討していく。
- ・耳地区だけでなく、『河崎さんち』をモデルとした広がりにつなげたい。



団体からのメッセージ

『ちょっとお茶でも飲みながらおしゃべりしようかな…』そんな気軽に集える場にしていきたいと思っています。田舎のおばあちゃん家に遊びに来たような雰囲気、時にはぎやかに、時にはゆったりと時間が流れています。

【3-2】日常生活支え合い実践事業

障害者地域参加推進事業 (高浜町)

基礎情報

実施地域	高浜町全域
実施主体	特定非営利活動法人 おひさま
所在地	高浜町三明第2-36-1
代表者	理事長 小島 真弓



平成23年度の事業概要

障がい者福祉への理解と地域住民の交流が広がる機会を得られるように活動を行い、平成24年1月にはNPO法人格の認証を受けました。

備品を購入し、同年2月に老人憩いの家「瑞祥苑」内のロビーにカフェ「いっぷくや」を開設、障がいを持つスタッフと一緒に働きました。

現在の活動状況

カフェは平日10時から15時まで営業し、好評を得ています。

より多くの人に親んでもらえるように、カフェ内で「折り紙教室」「かご作り教室」などのイベントを月1回開催したり、地域のバザーやイベントに出向いて積極的に障がい福祉をすすめる活動をしたりしています。

カフェで障がい者スタッフが接客することにより、自然なかたちでお互いの理解につながっています。

事業の実績、成果

カフェ「いっぷくや」は、平成24年2月のオープン以来1年で、延べ4559名の利用がありました。現在は月平均480名の利用があり、予想よりも順調に推移しています。

高齢者を中心に来客があり、趣味・健康・育児・介護など様々な情報交換、交流の場になっています。

折り紙などの各教室には、10名前後の参加者があり、異世代間の交流や引きこもり予防、ストレス解消になると好評を得ています。

また、障がい者スタッフが接客することで、得意な部分にも気づいてもらうことができ、障がいへの理解者が増えました。

工夫した点

高齢者のみなさんが利用する施設内にあるカフェなので、老人クラブやシルバー人材センター（指定管理者）のご意見も聞きながら営業しています。

また、福祉のまちづくりの一環として行政や社会福祉協議会とも連携をしています。



事業の財源

平成23年度は、カフェの備品購入に地域支え合い体制づくり事業補助金を活用。

平成24年度以降は、自主財源の他、共同募金などの補助金を活用。

課題

カフェ事業と相乗効果のある事業の実施、安定経営。

今後の目標

今後は、カフェを活用し、障がいに関する相談や働く場づくり、福祉の人材育成などに繋げていきたいと考えています。

また、障がい福祉の情報交換・発信の場にしていきたいと思えます。

団体からのメッセージ

平成24年2月に障がい者福祉に携わる特定非営利法人「おひさま」として活動をスタートしました。

カフェ事業の他、障がい児日中一時預かり事業「おひさまハウス」、障がいのある方やその家族の相談を行っています。

障がい者福祉の充実は、あらゆる方の生きやすさに繋がると思えます。

「生きやすい町・高浜」を目指して、今後も積極的に活動していきます。



問合せ先： 特定非営利活動法人 おひさま

(TEL・FAX : 0770 - 72 - 5053)

【3-2】日常生活支え合い実践事業

小規模多機能ホームを活用した居場所づくり (おおい町)

基礎情報

実施地域	おおい町全域（4事業所）
実施主体	社会福祉法人 おおい町社会福祉協議会
所在地	おおい町本郷82-14
代表者	会長 荒木茂夫



平成23年度の事業概要

小規模多機能ホームを町内4か所に開設し、地域住民が気軽に立ち寄れ、サロンや生きがいづくり等地域のコミュニティ活動の場となるよう「地域とのかかわり」（地域の環境整備や交流イベント、サロン等）事業を展開し住民の居場所づくりを行う。
机、椅子、テレビ、テント等の備品の購入。

現在の活動状況

地域の環境整備や交流イベント、サロン事業等の地域とのかかわり事業をテント等の備品を活用し引き続き積極的に実施している。

- ・平成24年3月より新規事業として「コミュニティルーム」を各ホームに開設し、地域のみなさんのたまり場としてコーヒーやお茶等を飲みながらの会話や利用者と気軽に余暇を過ごせる事業を継続している。
- ・今夏には、障害のある方の交流の場や地域の方々の交流の機会づくりのため「サロンやレクリエーション」を開催。流しソーメンやバーベキュー、屋内で魚釣りや輪投げ等のゲーム等行っている。
- ・ホームの利用者さんは土に親しんできた方が多いため、耕運機を活用し敷地周辺に畑をつくり野菜を育てている。

事業の実績、成果

地域とのつながりを重視した事業を展開したことにより、利用者さんからは「近所の家に遊びに行くみたいだ」とか「一日気楽に過ごせる」という声がかかれた。
また、地域からは「ホームができて地域が元気になった」との声もあり、このようなことから利用者さんには「なじみの人たち」と生活できる「第2の我が家」として、地域にはコミュニティの場として認められつつある。

工夫した点

職員の町内会行事への参加やホーム周辺の草刈、花壇の設置、広報紙によるホームの情報発信等地域との関わりを重視した。
ホームの運営推進会議での地区委員の意見を重視し事業運営に反映した。



課題

交流イベントを通じた交流は活発化しているが、日常生活を通じた交流をいかに継続していくかが課題

事業の財源

平成23年度地域支え合い体制づくり事業補助金にて備品購入。
購入備品の維持管理については町社会福祉協議会の自主財源にて費用を確保。

今後の目標

認知症になられてもその人らしい暮らしが住み慣れた地域で継続できるように、今後もホームを地域のコミュニティの拠点として福祉関係者にこだわらず、地域のみなさんやボランティアさん等の「ふれあい」を通し、日常的に気軽に交流できる場をコンセプトに運営を継続していく。

職員からのメッセージ



この事業や活動を通じて、地域の方々の協力の大切さを実感しました。
職員だけではできなかった取組みでも、地域の協力を得ることで様々な可能性が広がりました。
この関係を継続して今後もよりよいサービスの提供に努めていきます。